

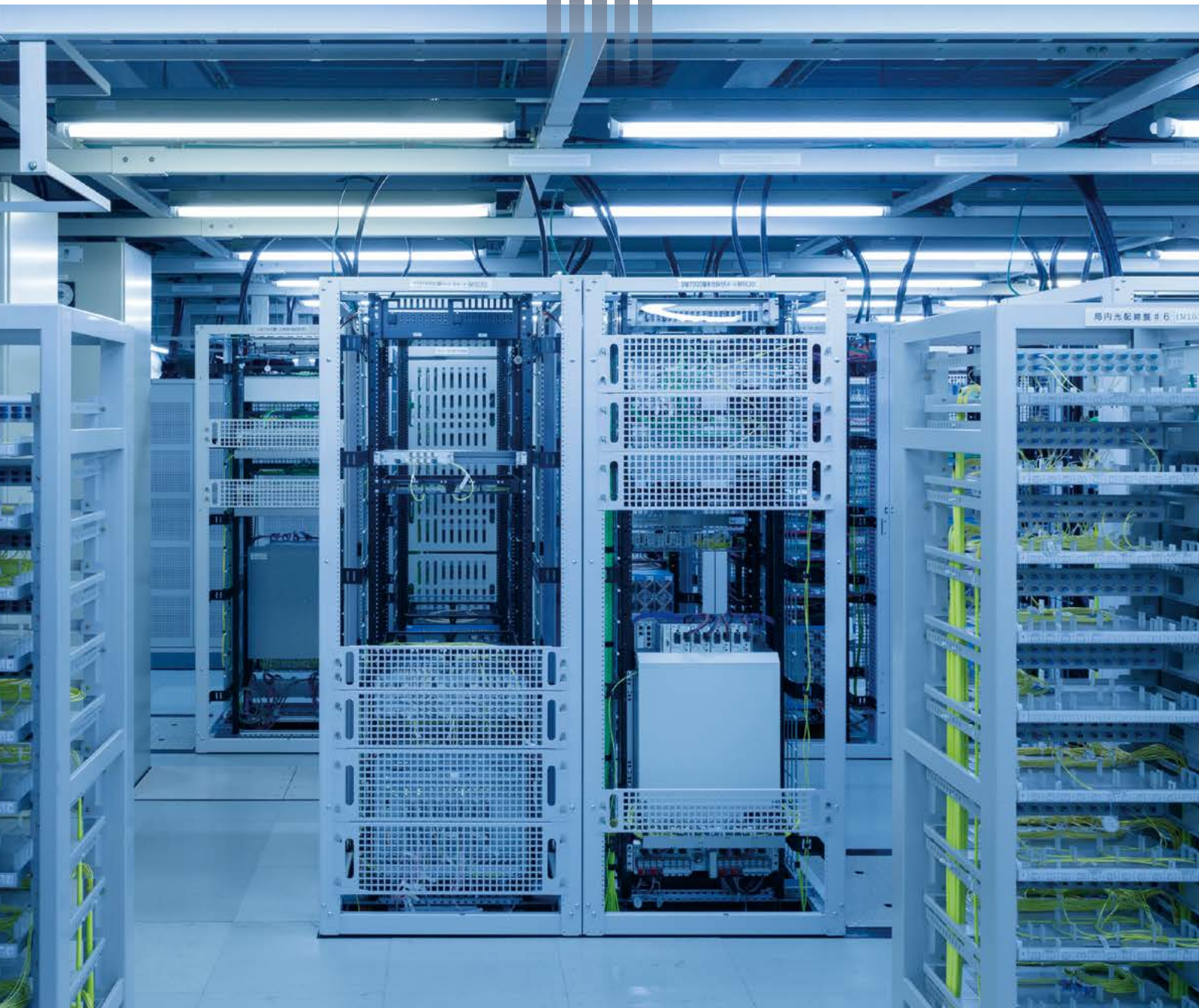
THE HOKURIKU INDUSTRIAL ADVANCEMENT CENTER

HIAAC NEWS

ハイアック・ニュース

一般財団法人 北陸産業活性化センター会報誌

vol.116



HIAC NEWS

INDEX

- 01 特集「北陸フェムテックネットワーク」について
- 07 2024年度 事業実績の概要
- 08 2025年度 事業計画の概要
- 09 北陸RDX活動報告
- 10 新事業創出助成事業
- 12 新賛助会員のご紹介
- 13 その他活動報告(2025.10~2026.3)
- 14 賛助会員ズームアップ「北陸通信ネットワーク株式会社」



◎表紙画像

北陸通信ネットワーク 通信局

[写真提供：北陸通信ネットワーク株式会社]

北陸通信ネットワークの通信機器を設置する建物
北陸3県の約50か所に構築

Special Report

「北陸フェムテックネットワーク」について

◆協議会創設の経緯・背景

2021年以降、内閣府「女性活躍・男女共同参画の重点方針」、いわゆる「女性版骨太の方針」において「フェムテックの推進【経済産業省】」が掲げられてきました。

フェムテックは、女性の健康やライフステージに関わる課題をテクノロジーで解決する新たな産業分野であり、誰もが生涯を通じて健康で自分らしく生きるための支援ツールとして注目を集めています。少子高齢化や生産年齢人口の減少が加速する中、誰もが働き続けやすい社会の実現は、持続可能な地域づくりにとって重要なテーマです。

フェムテックは、グローバルでは5兆円を超える市場があると言われており、欧米を中心に市場規模が拡大し、フェムテック製品やサービスを提供するスタートアップも数多く誕生しております。その一方で、日本のフェムテック市場は限定的であり、スタートアップの事例も極めて乏しい現状にあります。

こうした状況を踏まえ、当財団では2023年度に、北陸地域におけるフェムテック産業の振興を目指し、その可能性、課題等について、企業・医療・研究・行政機関の皆さまと研究会を開催し、議論を重ねた結果、運営主体となる協議会を組織して効果的に運用すべきとの結論に至りました。

翌2024年度は、協議会創設に向けた準備期間として、組織・運営体制の整備やシンポジウムの開催等による普及啓発に取り組んでまいりました。

そして今年度、フェムテックを起点に社会課題の解決と新たな産業・雇用の創出を目指すプラットフォームとして「北陸フェムテックネットワーク」の創設準備が整い、5月23日に始動しました。

◆協議会の名称

地域経済を動かす新たな力となる **北陸フェムテックネットワーク**

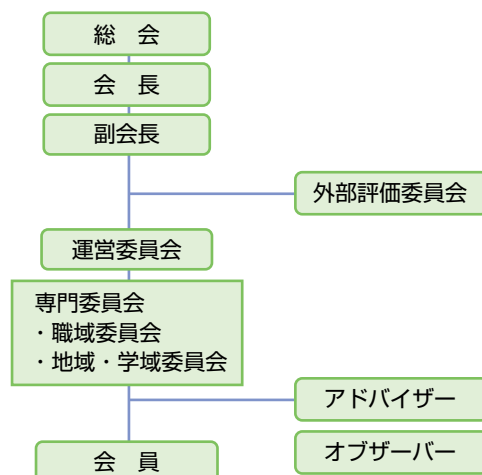
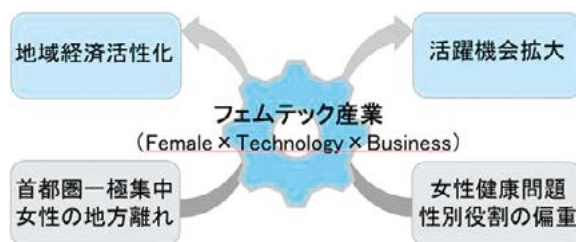
◆協議会のビジョン

『北陸から日本全国へ、日本全国から北陸へ、フェムテック産業振興と誰もが活躍しやすい社会の構築を目指す』

北陸フェムテックネットワークは、フェムテック産業振興による地域経済の活性化と誰もが活躍しやすい社会の実現を目指し、地域の資源や技術を活用しながら、持続可能な社会とエコシステムの構築を推進します。また、国内外からも先進技術や知見を積極的に取り入れ、双方向の交流を図ることで、北陸をDE&I（ダイバーシティ・エクイティ&インクルージョン）とフェムテック産業のリーディングモデルとします。

◆協議会の組織・体制

- 会長、副会長、専門委員長を中心に運営
- 組織の活動を協議する運営委員会を設置
- 職域、地域・学域ごとに専門委員会を設置
- 外部評価委員会による第三者評価を実施



(1) 役員 (敬称略)

役職	氏名	所属
会長	平田 貞代	芝浦工業大学 准教授
副会長	西根 英一	(株)ヘルスケアビジネスナレッジ 代表取締役社長 事業構想大学院大学 特任教授
副会長	前田 祐二郎	東京大学医学部附属病院 バイオデザイン部門長
副会長	福井 幸博	(一財)北陸産業活性化センター 特別参与

(2) 運営委員会

役職	
委員長	[北陸フェムテックネットワーク会長が兼務]
委員	[北陸フェムテックネットワーク副会長・専門委員会委員長が兼務]

(3) 専門委員会 (敬称略)

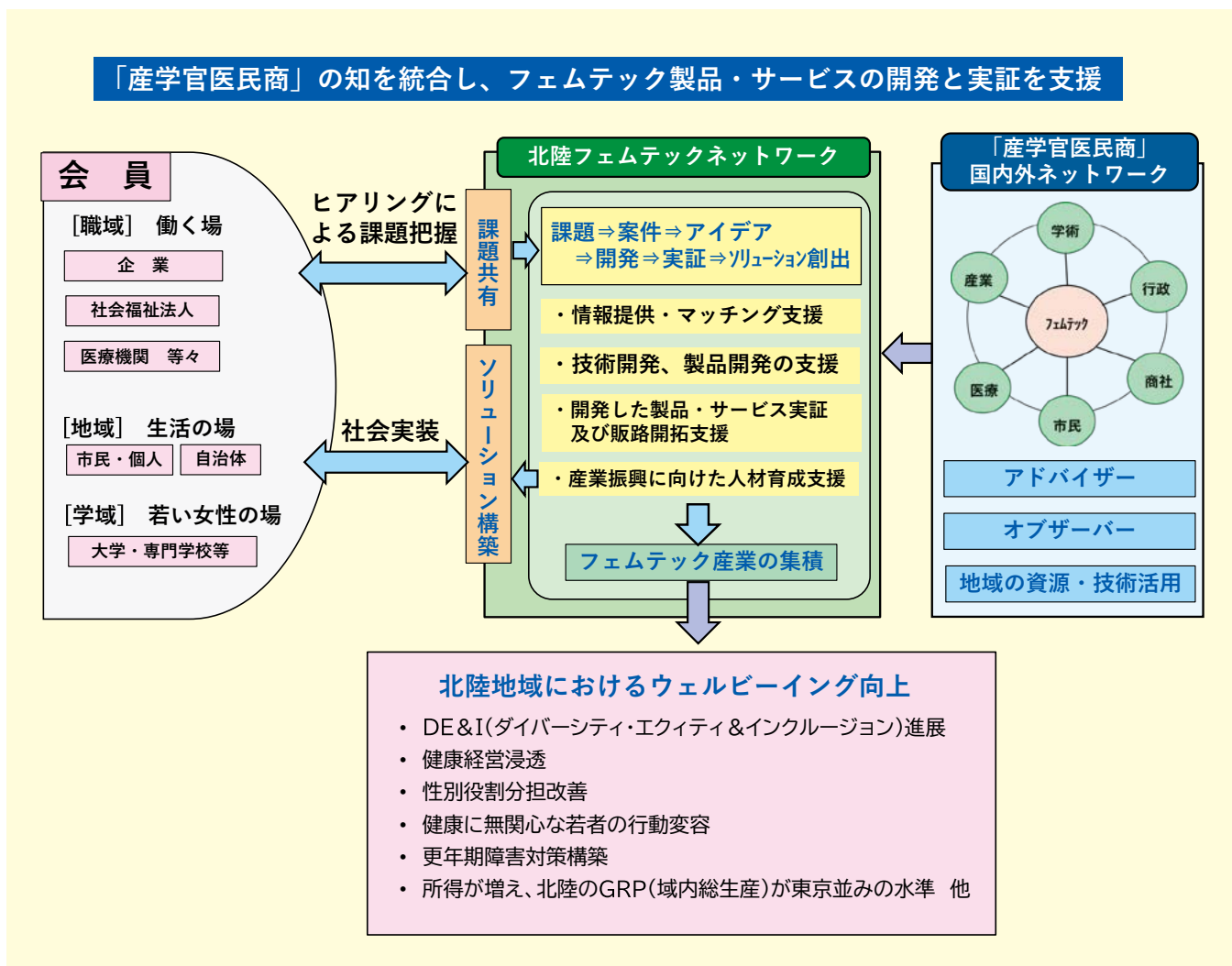
役職	氏名	所属
職域委員長	岩谷 一隆	NTTプレジジョンメディシン(株) パーソナルサービス事業部 事業戦略部 担当課長
地域・学域委員長	三浦 雅一	北陸大学 理事

◆2025年度 事業計画

基本方針	取組項目	想定している事業内容
1. 女性の活躍推進に向けた課題の収集・把握	(1) 職域・地域・学域における会員へのヒアリング	・ 毎月2~3会員を訪問してのヒアリング ・ ヒアリング内容を分析し、課題の整理
	(2) 課題に対するフェムテックを活用したソリューション開発	・ 課題解決に向けたアイデアの創出とソリューション検討 ・ 専門委員会の開催 (年4回程度)
2. 「産学官医民商」ネットワーク構築およびフェムテック製品・サービス開発と実証の支援	(1) 国内外のフェムテック取組機関等とのネットワーク構築	・ 毎月3~4件の新規会員等の勧誘とフェムテックに関するネットワーク構築 ・ 地域のフェムテックに関するシーズ・ニーズの収集
	(2) フェムテック市場の成長を促進するための情報提供・マッチング支援	・ バイオデザインワークショップの開催 (9月) ・ フェムテックシンポジウムの開催 (10月) ・ 運営委員会の開催 (年4回) ・ 連携案件創出に向けたマッチング等のコーディネート活動 ・ HP等を活用した情報発信
	(3) 技術開発、製品開発のサポート	・ 国プロジェクト組成および申請・補助金獲得支援
3. 災害発生時におけるフェムテックの活用	(1) 大規模災害時における女性の健康・衛生・安全に関する課題の収集・把握	・ 能登半島の被災地で活動するNPO等の訪問 ・ 被災地の自治体における情報収集等
	(2) 災害時の女性の健康リスク軽減や備蓄について検討し、自治体等へ提言	・ フェムテック製品を活用した災害時の対応に関する提言作成等

◆協議会の活動

- a. 女性活躍推進に向けた課題の収集・把握およびソリューションの検討
 - 会員へのヒアリングを通じて、職域・地域・学域における女性活躍推進の課題を収集・分析
 - 収集した課題に基づき、フェムテックを活用したソリューションを検討
- b. 「産学官医民商」ネットワーク構築およびフェムテック製品・サービス開発と実証の支援
 - フェムテック市場の成長を促進するための情報提供・マッチング支援
 - 技術開発、製品開発のサポート（国プロジェクト組成・補助金獲得支援）
 - 開発した製品・サービスの実証
 - フェムテック産業振興を目指した人材育成（起業家の育成と支援等）
- c. 災害発生時におけるフェムテックの活用



◆設立総会の開催

2023年度以来の「北陸地域におけるフェムテック産業振興の可能性研究会」の成果を共有するとともに、女性の生き方や社会参画に関する豊富な知見を有する講師をお迎えし、地域社会の未来について、多面的な視点から考える機会としました。



◆日 時：2025年5月23日（金） 10:00～12:30

◆場 所：ホテル日航金沢（オンライン併用）

◆参加者：122名〔現地66名、オンライン56名〕

◆後 援：北陸経済連合会、とやまヘルスケアコンソーシアム、石川県次世代ヘルスケア産業協議会、
福井しあわせ健康産業協議会、一般社団法人 日本フェムテック協会

◆協 力：中部経済産業局電力・ガス事業北陸支局

内 容

1. 「北陸フェムテックネットワーク」の事業紹介

説明者：北陸フェムテックネットワーク副会長 福井 幸博
（一般財団法人 北陸産業活性化センター 特別参与）

内 容：「北陸フェムテックネットワーク」のビジョン、体制、2025 年度事業計画、
活動概要、協議会会則 等について説明。続けて、役員（会長・副会長）を紹介。



2. 「北陸フェムテックネットワーク」の会長挨拶

平田 貞代 氏（芝浦工業大学 准教授）が「北陸フェムテックネットワーク」を代表して挨拶。

<要旨>

- ・女性の健康不調の影響は、女性だけの問題にとどまらず、これが解消された場合の経済効果は国内で2兆円以上*とされている。* 出展 経済産業省
- ・日本のフェムテック市場規模は、アメリカの1/100程度で成長率は横ばい、関連特許は生理用品が主で雑貨や無料アプリの提供に限られている。その一方で、アメリカの市場は15%の成長率で、AIやIT関連の特許が多く登録され、医薬品やデジタル機器が提供されている。
- ・地理的・時間的制約を解消するテクノロジーを活用するフェムテックは、女性の健康不調と地方離れという2つの問題を解決する歯車となる。
- ・北陸フェムテックネットワークは、フェムテック産業振興による地域経済活性化と誰もが活躍できる社会の形成を目指す。



3. 記念講演

演題：「女性活躍がウェルビーイングの鍵」

講師：昭和女子大学 総長 坂東 真理子 氏

要旨：「女性のウェルビーイングは家族や社会のウェルビーイングにつながる。女性は自らの能力を発揮できれば自己肯定感が増し、人生をポジティブに受け入れることができる。そうした女性は周囲に対して肯定的な働きかけを行い、社会にも積極的に関わるとされている。そのためには、社会的な環境－制度や慣習－だけでなく、個人として女性が健康で力を持っていることが大事。特に身体的な健康と精神的な健康は関りが深く、両方の健康推進が社会と女性のウェルビーイングに不可欠である。」



4. パネルディスカッション

テーマ：「フェムテックで描く持続可能な地域の未来」

モデレーター：北陸フェムテックネットワーク 副会長 西根 英一 氏（事業構想大学院大学 特任教授）

パネリスト：昭和女子大学 総長 坂東 眞理子 氏

北陸フェムテックネットワーク 会長（芝浦工業大学 准教授） 平田 貞代 氏

北陸フェムテックネットワーク 副会長（東京大学医学部附属病院 バイオデザイン部門長） 前田 祐二郎 氏

※北陸フェムテックネットワークの役員3名とご講演いただいた坂東眞理子氏に加え、参加者の皆さまも交えながら、以下について議論しました。

(1) 持続可能な地域の未来へ向けて、女性および女性を取り巻く社会はどうあるべきか（記念講演を踏まえた感想・意見）

(2) フェムテックが挑む現在

・女性の健康課題と社会問題

（前年度の研究会での議論を振り返り、職域、地域、学域におけるキーポイントについて考える）

・北陸におけるフェムテックの現在地

（フェムテック関連産業・人材の現状を踏まえて、フェムテック産業振興のハードルについて考える）

(3) フェムテックが描く未来

・フェムテック産業創出～産業振興～社会浸透のための要件（さまざまなデザインの専門家の視点から）

・北陸地域におけるフェムテックの未来予想図（会場参加者からの意見）

(4) 終わりに（坂東眞理子氏からのコメント）

「本日お集まりの皆さまの中には、フェムテックに関して、まだ明確なビジョンを持たれているわけではなく、これから何をすべきかを模索し、チャレンジしようとしている方々が多くいらっしゃると思う。まずは問題を意識しないと課題は見えてこないし、解決もしない。今はその課題が見えてきた段階だと思うので、ぜひこの取組が形となり、社会実装に進むことを期待している。」



「北陸フェムテックネットワーク」会員募集のご案内

「北陸フェムテックネットワーク」は、フェムテック産業の発展を通じて、健康・働きやすさ・暮らしやすさを向上させることを目的に、以下の企業・団体・個人を対象とする産学官医民商の協議会です。

- ・健康・ウェルビーイングに貢献したい方
- ・フェムテック分野の新商品・新サービスの開発や実証を進めたい方
- ・産学官連携や地域活性化に関心がある方

当協議会にご入会いただくことで、最新の市場動向、実証実験の機会、ビジネスマッチング、補助金情報などのサポートが受けられます。

● 会費は無料です。

● 入会のお申込み・お問合せは、以下までお願いいたします。

メール：femtech-network@hiac.or.jp

電話：076-264-3001



「デザイン思考による事業創出ワークショップ」の開催

本ワークショップは、企業や団体等において、現場のニーズを出発点とした問題解決策を検討し、新たな商品・サービス開発の全体像を設計できる人材育成に役立ててもらうことを目的に3年前から実施しております。

今回は「北陸フェムテックネットワーク事業」の一環として、「BIODESIGN WORKSHOP for FEMTECH」をテーマに、フェムテック領域の事例・課題を中心に取り扱いました。

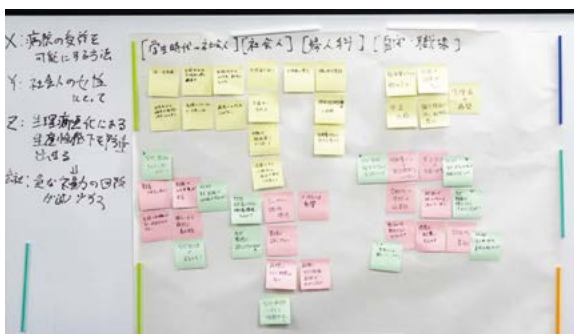
講師は、このワークショップを初回からお世話いただいております、東京大学医学部附属病院 バイオデザイン部門長で「北陸フェムテックネットワーク」の副会長にもご就任いただいております前田祐二郎先生ほか3名の先生方にご指導いただきました。

また、開催にあたり、北陸経済連合会をはじめ、北陸ヘルスケア産業推進連絡会の参画団体や中部経済産業局電力・ガス事業北陸支局にご協力をいただきました。

- ◆日時：2025年9月4日(木)、9:00~17:00
- ◆場所：北国ビルディング【オンライン併催】
- ◆講師：東京大学医学部附属病院 バイオデザイン部門 部門長 前田 祐二郎 氏 ほか3名
- ◆受講者：現地4名、オンライン13名
- ◆内容：

9:00-9:10	(10分)	イントロ	
9:10-9:40	(30分)	講義	・導入講義
9:40-9:55	(15分)	アイスブレイク	
9:55-10:55	(60分)	講義	・イノベーションとは？ ・観察結果の理解と課題特定 ・デザイン思考の紹介 ・ニーズステートメントの作成
11:05-12:00	(55分)	講義 / ワーク	・観察結果の理解と課題特定（症例を用いたワーク） ・ニーズステートメント作成
13:00-13:50	(50分)	講義 / ワーク	・ニーズステートメントのブラッシュアップ、スコーピング
13:50-14:40	(50分)	講義	・ニーズの調査、絞り込み、ニーズクライテリア ・バイオデザインを用いた事例紹介
14:55-15:55	(60分)	講義 / ワーク	・ブレインストーミング
15:55-16:45	(50分)	講義	・バイオデザインを用いた事例紹介、プロトタイプング
16:45-17:00	(15分)	まとめ	・まとめ・振り返り

・ワークショップの様子



2024年度 事業実績の概要

1. プロジェクト実施に必要なコンサルティングおよび支援活動

(1) 技術アドバイス、コーディネート活動

- ・能登珪藻土を活用したピザ窯の販路開拓支援
- ・社史製作へのAI導入支援
- ・ドローンレーザー測量技術の電力設備管理への導入支援
- ・石川県産間伐材を活用したアロマオイル・ビジネス支援

(2) 北陸3県のヘルスケア産業推進

- ① 北陸地域におけるフェムテック産業振興研究会の実施

第1回研究会 (8月27日)	しいのき迎賓館 (オンライン併用)	働く女性の健康と健やかで 幸せを実現するフェムテック の動向
第2回研究会 (10月25日)	オンライン	地域社会における働く女性 の健康課題と対策
第3回研究会 (12月13日)	オンライン	若年女性の健康課題の見え る化と対策
第4回研究会 (2月28日)	石川県地場産業振興 センター(オンライン 併用)	性別・年齢に関係なく誰もが 活躍できる社会を実現する には

- ②石川県次世代ヘルスケア産業協議会総会の運営協力(8/2)

- ③北陸ヘルスケア産業推進連絡会の実施(3/18)

(3) デジタルシミュレーション人材育成(工作機械産業のDX支援)

「2024年度 工作機械企業向けデジタルシミュレーション研修」の実施(11/27~28)

(4) 国等の事業への支援(共催、後援、協力)

- 「Matching HUB Hokuriku2024」を共催(11/12~13)
主催:北陸先端科学技術大学院大学
- 「金工大・産総研 先端複合材料ブリッジ イノベーション
ラボトリ/マルチマテリアルシンポジウム」を後援(10/31)
主催:国立研究開発法人産業技術総合研究所
- 「北陸地域ICTイノベーションセミナー2024」を後援
(11/18)
主催:総務省北陸総合通信局、北陸情報通信協議会、ICT
研究開発機能連携推進会議
- 「石川健康長寿プロジェクト市民公開講座」を後援(3/23)
主催:金沢大学医薬保健研究域医学系 脳神経内科学

2. 新事業創出助成

- 採択案件(2件)
- ①金沢医科大学「変形性膝関節症の治療における性能評価
サービスの事業化」
- ②金沢大学「災害復旧時に適用可能な柱材用大口径ボルトの
簡易分離装置の開発」

3. 国等の委託・補助事業

(1) 経済産業省関連事業

J-NEXUS産学融合先導モデル拠点創出プログラム [2021
年度~5年間]

■北陸RDX

事業概要:北陸地域の産業基盤とDX・ESG投資の融合に
より地域産業の高度化と新産業創出を導く産学
官融合のRDX (Regional Digital Transformation)
拠点を形成する。

- 第8回ESGファイナンスラボの実施(7/2)

- 「Hokuriku Innovation Summit in Kanazawa」の実施
(12/10)

- HDxA第8回総会の実施(1/21)

- 2024年度成果報告会の実施(2/19)

(2) その他 委託・補助事業

- 令和7年度予防・健康づくりの社会実装に向けた研究開発
基盤整備事業(国立研究開発法人(AMED))への申請準備

4. 普及啓発活動

(1) 技術シーズ(研究成果)の発表会等の開催

- イノベーションシーズ講演会(10/3)
産業技術総合研究所 北陸デジタルものづくりセンターとの
共催により「デジタルものづくりにおける最新技術」をテー
マに実施

(2) 講演会・セミナー等の開催

- 「デザイン思考による事業創出ワークショップ」(9/12)
講師:東京大学医学部附属病院バイオデザイン部門長
前田祐二郎氏 他
- 北陸産業活性化フォーラム(3/4)
内容:テーマ「企業の競争力を強化するための生成AI」
講演1「生成AI活用の最前線 ~観光、医療、ビジネスにおけ
る挑戦と可能性~」
福井工業大学 AI & IoTセンター長
工学部 電気電子情報工学科教授 芥子育雄氏
講演2「国内のDXや生成AIの取組状況と経済産業省の支
援策について」
経済産業省北陸支局地域経済産業課総括係長
地域未来コンシェルジュ 上野拓実氏

(3) 会報誌の発行

- HIAC NEWS114号の発行(9月)
- HIAC NEWS115号の発行(3月)

(4) 展示会への出展

- 北陸技術交流テクノフェア2024(10/17-18)
- Matching HUB Hokuriku2024(11/12-13)

5. 株式会社RICHとの連携

- ・新事業創出助成における外部評価委員を株式会社RICH代表
取締役 井熊均氏へ委嘱(5/31)
- ・北陸RDX第8回ファイナンスラボにおいて、株式会社RICHの
契約アドバイザー6名より、事業者へ技術面、マーケティング等
に関する助言を実施(7/2)
- ・北陸RDX第9回ファイナンスラボの代替として、株式会社
RICHが受託した中小企業庁事業との合同によるシンポジウム
を実施(12/10)

6. その他

(1) 連絡会議

全国地域技術センター連絡協議会

(2) 理事会(6/5、3/17)

(3) 評議員会(6/28、3/26)

(4) 監事監査(5/30)

2025年度 事業計画の概要

1. プロジェクト実施に必要なコンサルティングおよび支援活動

(1) 技術アドバイス、コーディネート活動

産学官金と連携し、伝統産業、高機能新素材、ヘルスケア等の製造業を中心に、北陸の優れた独自技術によりイノベーションを生み出し、新たなビジネスチャンスを創出する事業について支援する。具体的には、コーディネータによるアドバイスや企業・大学間等の技術シーズのマッチングを他機関と連携して展開するとともに、地域企業における事業の高度化に向けたハンズオン支援を実施する。また、能登半島地震からの復旧・復興に資するため、能登方面の中小企業支援に取り組む。

(2) 北陸3県のヘルスケア産業推進

ヘルスケア産業に関わる北陸3県連携の場として、北陸ヘルスケア産業推進連絡会を開催し、各県の情報交換、国等の委託・補助事業への申請に向けた協議を実施する。

(3) フェムテック産業振興

2023年度、2024年度の研究会、シンポジウム、ワークショップ等の実績を踏まえ、フェムテック産業振興と女性活躍推進に向けた協議会として「北陸フェムテックネットワーク」を設立し、より実効性のある活動を展開する。具体的には、企業等における女性活躍に向けた課題を収集・把握するとともに、「産学官医民商」のネットワークを構築し、地域の資源や技術を活用したフェムテック製品・サービスの開発と実証を支援する。

(4) デジタルシミュレーション人材育成

企業のデジタル化支援として、デジタルシミュレーション技術の向上と適用拡大により、生産性向上や業務革新を支援する。具体的には、北陸地域に集積している工作機械企業を対象に、大学およびCAEベンダーと連携し、企業ニーズを反映したテーマおよびカリキュラムによる「デジタルシミュレーション研修」を企画・実施する。

なお、予算は後述する経済産業省 産学融合拠点創出事業における補助金を充当する。

(5) 国等の事業への支援（共催、後援等）

国、地方自治体、大学、経済団体、地域団体等が主催または実行委員会を組織して実施する事業で、北陸地域の経済・産業の活性化に寄与する事業について、共催、後援等の支援を実施する。

2. 新事業創出助成

ベンチャーを含む北陸地域の企業・大学において、実用化を目指す事業や製品開発に対して助成を行う事により、新産業創出に繋がる地域企業・大学の取組を支援する。

3. 国等の委託・補助事業

(1) 経済産業省関連事業

2021年度の産学融合拠点創出事業において、当財団が代表幹事機関として採択された「北陸RDX～DXとESG投資による次世代への飛躍～」に引き続き取り組み、北陸地域の産業資源とDXを組み合わせる次世代に向けた新産業を生み出す「Regional Digital Transformation (RDX)」を推進する。

2025年度は、本事業の最終年度となることを踏まえ、これまでの支援を継続するとともに、事業を通して培った産学官金のネットワークを継承する新たな連携体制について、活動の実証と基盤づくりを進める。

(2) その他 関連事業

- ・能登半島地震・豪雨災害からの復旧・復興に資するため、地域の災害レジリエンス強化に向けたプロジェクトを企画、申請する。
- ・前述のフェムテック産業振興と女性活躍推進に向けた協議会の活動と整合する施策について調査し、プロジェクトを企画、申請する。

4. 普及啓発活動

(1) 技術シーズ（研究成果）の発表会等の開催

産学官連携による研究開発を推進する一環として、国立研究開発法人産業技術総合研究所の技術シーズについて発表会等を開催し、企業とのマッチングを推進する。

(2) 講演会・セミナー等の開催

北陸地域の産業活性化のための課題や当財団の取組について理解を深めてもらうため、講演会・セミナー等を開催する。

(3) 会報誌の発行

賛助会員や関係機関を対象に、当財団の事業活動状況や産業の活性化に資する情報提供、賛助会員の事業や製品紹介等に活用するため、会報誌を発行する。

(4) 展示会への出展

北陸3県において開催される展示会やマッチングイベントに出展し、当財団の事業についてPRするとともに、支援する企業の製品・サービスを展示することにより販売促進やマッチングに資する。

北陸RDX活動報告

令和7年度 第3回グロスチームミーティング(ニーズファインディング・ミーティング)

グロスチーム初めての試みとなるニーズファインディング・ミーティングを開催しました。

講師の三輪泰史氏より、人口減少や気候変動といった農業課題に対し、スマート農業の先端技術が解決策となる展望が示されました。また、続く意見交換では、AIや自動運転農機の導入を通じた持続可能な農業の実現に向け、活発な議論が行われました。

【開催日】 2025年9月30日

【場所】 ホテル金沢

【参加者】 23名

【内容】

◆開会挨拶

◆講演「スマート農業の現状と将来動向」

講師 株式会社日本総合研究所
創発戦略センターチーフスペシャリスト 三輪 泰史 氏

- ・ 農業DX構想2.0
- ・ スマート農業全体像「匠の眼」「匠の頭脳」「匠の手」
- ・ スマート農業の普及戦略



◆大学研究者による話題提供

①海藻原料のバイオスティミュラントの開発

金沢大学 疾患モデル総合研究センター
研究基盤支援施設 准教授 西内 巧 氏



②農工連携画像処理技術の紹介

福井大学 工学系部門
工学領域 知能システム工学講座 講師 築地原 里樹 氏



③ROSEハンドを用いた農産物収穫の省力化

北陸先端科学技術大学院大学
AI・ソフトロボティクス研究拠点長・教授 HO Anh Van 氏
代理発表 只野 利恩 氏



◆意見交換・名刺交換会



新事業創出助成事業

2025年度の採択先決定

北陸地域における産業の高度化および新産業の創出等に資するため、2021年度から企業や大学等が実施する3年以内の実用化・事業化を目指す申請に対して、『新事業創出助成』を行っています。

今年度も外部審査委員による厳正な審査を行い、以下の2件を採択しました。

申請概要(タイトル/申請代表者/住所)	申請内容
<p>AI対話型・御朱印オーダーメイドサービス/ 合同会社チェーンデザイン/ 石川県金沢市</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・本事業では、伝統絵柄のデジタル化とデータベース化を実施し、AIとの対話に基づき「ご利益」「季節感」「色味」「用途」などの絵柄から最適な組み合わせを行うことで、オリジナルの御朱印を制作する仕組みを開発するとともに、御朱印受発注用のECサイトを構築し、神社仏閣に導入してもらう。 ・申請者は、加賀友禅の絵柄をデジタル化し、花紋をオーダーメイドできるシステムを制作した実績があり、本事業ではこれを改良してサービスを提供する。 ・能登半島地震により、能登の個性的な芸能や祭りを支えていた神社仏閣が損壊し、収益源と地域コミュニティを同時に失う危機に瀕していることを踏まえ、2024年度 石川県成長戦略ファンドの「地域資源活用新商品・新サービスの開発に係る事前調査支援」に採択され、JAISTの協力を得て調査した結果、輪島の重蔵神社ではコロナ禍においてECサイトでの御朱印の受注を可能にしたところ、海外からも発注があること等により、震災後も大きな収入源となっていることがわかった。 
<p>小型立型マシニングセンターの X軸ストローク延長用アタッチメントの 開発および販売/ ツダコマテクノサポート株式会社/ 石川県野々市市</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・本事業では、小型工作機械(立型マシニングセンタ)に後付け可能なストローク延長アタッチメント(治具テーブル)を新規開発するため、製品の試作および機能検証を実施するとともに、販促活動を行う。 ・EV化への軸足の移行やギガキャストの普及による加工ワークの大型化を踏まえ、本開発により大型機械の導入を行うことなく、従前では受託不可能であったサイズや品目にも対応可能とする。 ・今年度のMEX金沢に参考出品し、市場ニーズを確認できたことから、今年度末頃の初号機販売を目指すとともに、国内の展示会への出品や工作機械メーカーとの連携による販促活動を進めていく。 

2024年度採択分の成果報告

テーマ：災害復旧時に適用可能な柱材用大口径ボルトの簡易分離装置の開発
事業者(代表者)：金沢大学 理工研究域 機械工学類 准教授 榎本啓士 氏
事業期間：2024年7月～2025年6月

【目的】

災害後の復旧時、多くの木質系廃棄物を処理しなければならない。日本の場合、木造家屋が多いので、災害廃棄物の二割から三割程度が木質系である。これらの木質系廃棄物から金属などを適切に分離する装置を開発し、燃料やバイオプラスチックの原料として再利用できる環境を整える。

【概要】

2020年以降、能登方面で続いている群発地震や2023年5月に全国各地で起きた地震への対策として、能登にある木造住宅の多くは、大口径ボルトを用いて耐震補強を行った。その結果、2024年能登半島震災の廃棄物にも、大口径ボルトを取り付けられた柱材が多くなる。(図1) この大型金属締結部品は、主要柱材と強固に締結されているため、廃棄時の分離に多くの工数を要する。その結果、1日当たりの処理量が大きく制限される。この処理速度制限は、災害廃棄物の分別時に大きな障害となり、災害廃棄物有効利用を伴う復旧時間短縮を妨げる。災害時には、1) 処理速度増加による復旧時間の短縮。2) 分別速度増加による有効利用割合の増加を実現し、平時には、1) 簡略化した作業手順の実現による工数削減。2) 特殊技能を要しない作業を実現する。この事業で開発される装置は、主に住宅リフォーム業と中間処理業での利用が見込まれる。

本事業で開発した装置(図2)は、ボルト除去に要する時間が、従来の手動方法と比較して、1/4程度になった。初号機は、作業者の安全性を優先した設計としたので、柱材を装置に設置する工程以外は、極端に強い力を必要としない。処理現場での実証試験を経て、1) 整備性、2) 適用範囲、を再考した式号機を設計している。柱を運搬する重機と適切に連携することにより、作業人員5人程度で、1日当たり1,000本程度の柱材を処理できる。

災害時に限らず、作業の省力化は、平時の高付加価値化にもつながる。特に、「循環型社会形成推進基本法(平成12年法律第110号)」によれば、循環型社会形成に向けて、「ライフサイクル全体での徹底的な資源循環」が重点分野の一つである。その一環で、古民家を解体する際に取り出される古材の市場が注目されている。再生資源卸売業は、11,062の事業所があり、売上高は3.3兆円である(2016年)。これらの事業所への導入が見込めるので、年間数百機の販売を想定できる。



図1 大口径ボルトの例(画像提供：能登リサイクル協同組合)



図2 本事業で試作した初号機(能登リサイクル協同組合にて)



ボルト引抜部近影



ボルトを引き抜く様子

新賛助会員のご紹介

合同会社チェーンデザイン

【代表者】 覺間祐輔
【住所】 石川県金沢市保古1-171-1
【設立】 2018年7月
【従業員数】 4名
【URL】 <https://chain-design.jp>

【事業内容】 広告、宣伝並びに書籍、印刷物のデザイン・製作・出版・販売。各種アプリケーション、ウェブコンテンツの制作及び販売

【当社について】

「デザイン／アート／テクノロジー」をキーワードに、主に、3DCG制作をメインとした、AR/VRの制作やメタバース／デジタルツインに関連したビジュアライズ事業、イマーシブ映像の制作、ブロックチェーン技術を活用した事業を展開しています。幅広い分野のクリエイティブを手掛けるコンテンツ制作会社です。



工芸品の3Dデータ化



Altuber



金沢市メタバース

ツダコマテクノサポート株式会社

【代表者】 大河哲史
【住所】 石川県野々市市栗田5丁目100番地
【設立】 2006年6月
【資本金】 1,000万円
【従業員数】 18名

【URL】 <https://www.tts-tsudakoma.co.jp/>
【事業内容】 工作機器アタッチメントの修理サービス、工作機械の修理・据え付け、各種治具およびアタッチメントの製造販売

【当社について】

津田駒工業が製造販売するバイス・NC円テーブルなどの工作機械用アタッチメントのアフターサービスを主な業務として2006年に設立。現在はその経験を活かして、工作機械の据付・修理業務受託事業、治具の設計製作、またオリジナル製品の設計開発及び販売を手掛けている。

石川県野々市市を拠点に活動の場は日本国内のみならず海外にも活動の場を広げており、常に新たな事業・商材の開発への挑戦に挑み続けている。



ツダコマテクノサポート株式会社

その他活動報告 2025.10 ▶ 2026.3

2025年10月以降の主な行事予定

行事名	開催日	開催場所
北陸フェムテックネットワーク シンポジウム「北陸地域から考える女性活躍推進と フェムテックの活用」	10月15日(水)	金沢市内(ハイブリッド)
北陸技術交流テクノフェア2025【出展】	10月23日(木)～24日(金)	福井県産業会館
富山県ものづくり総合見本市2025【出展】	10月30日(木)～11月1日(土)	富山産業展示館テクノホール
Matching HUB Hokuriku2025【出展】	11月13日(木)～14日(金)	ANAクラウンプラザホテル金沢
工作機械企業向けデジタルシミュレーション研修	12月15日(月)～16日(火)	金沢市内
北陸DXアライアンス(HDxA) 第9回総会	12月	金沢市内(ハイブリッド)
イノベーションシーズ講演会	2月24日(火)	ハピリンホール(福井市)
北陸産業活性化フォーラム	未定	未定
第5回北陸ヘルスケア産業推進連絡会	3月	北国ビル(ハイブリッド)
第43回理事会	3月	金沢市内
第37回評議員会	3月	金沢市内

ホームページでも各種講演会やセミナーなどを随時ご案内しております。ぜひご覧ください。

北陸通信ネットワーク株式会社

創業 1993年5月
所在地 石川県金沢市西念一丁目1番3号
資本金 60億円
従業員 190名

事業内容 電気通信事業法に基づく電気通信事業
電気通信設備、電気設備の工事ならびに保守
ホームページ <https://www.htnet.co.jp/>



代表取締役社長
徳光 吉成 氏

北陸の情報通信ネットワークを支える北陸通信ネットワークの徳光様にお話を伺いました。

北陸通信ネットワークについて

当社は通信自由化の時代背景の中、新規参入事業者(NCC)である電力系通信業者として1993年に設立されました。法人を対象とした専用線による通信サービスからスタートした当社は、お客様の拠点を結ぶ専用線をはじめとして、技術革新に適応を続け、インターネットや広域イーサネット、さらにはクラウド、セキュリティの分野へと事業領域を広げながら、社会にとってなくてはならない情報通信ネットワークを担う企業へと成長し、今日では北陸地域に1万4,000kmを超える自社光ファイバー網を構築し、約900社のお客様を対象にネットワークの提供と運用を行っています。

近年では、ほとんどの方がスマートフォンやクラウドサービスを利用するようになり、社会インフラとしての情報通信ネットワークはますますその重要性を高めています。



事業内容

▶事業所間通信

自社構築の光ファイバーネットワークと広域イーサネット技術により、99.999%の高い稼働率を誇る「HTNet-Etherサービス」を、北陸地域の8,600拠点に提供しています。

▶携帯電話基地局向け通信

大手携帯電話キャリアの北陸地域の基地局と地域センターを結ぶ県内バックボーンネットワークを提供し、地域の通信インフラを支えています。

▶オフィス内ITインフラ構築

お客さまのご要望に応じて、構内ネットワーク、サーバ、セキュリティ、無線LAN、クラウドなどのオフィスのIT環境をトータルにカスタマイズ構築しています。

能登半島地震への対応

2024年1月1日に発生した能登半島地震では、携帯電話基地局向け通信回線をはじめ、官公庁・病院・金融機関向けなど、多くの通信回線に影響を受けました。

当社は24時間365日の体制で通信回線の運用・監視を行っていますが、発災後、体制の強化、他通信事業者や協力会社と連携し、1か月で応急復旧を完了しました。その間、最長10日以上にわたる停電にも非常用発電機をフル稼働させ通信サービスの提供を継続しています。

また、社会インフラを支えるという強い意志の下、山中の荒れた道を踏破して携帯基地局向け回線復旧に努めるなど、社員一丸となって当社設立以来の難局を乗り越えることができました。

こうした対応を通じて、これからも非常時においても通信事業者として北陸の皆様への情報通信サービスの提供を継続するという使命を果たしてまいります。

